十訓抄

第一　可定心操振舞事　二六

成範民部卿、事ありて後めしかへされて、内裡に参られたりけるに、むかしは女房の入立（いりたち）にてありし人の、今はさしもなかりければ、女房の中より、昔を思ひ出でゝ、

雲の上はありし昔にかはらねど、
見し玉だれの内やゆかしき。

とよみて出だしたりけるを、返事せんとて、灯炉のきはによりけるほどに、小松のおとゞ（重盛）の参り給ひければ、急ぎたちのくとて、とうろの火のかきあげの木のはしにて、やもじをけちて、そばにぞ文字ばかりをかきて、みすの内へさし入れて出でられにけり。女房取りてみるに、文字一つにて、かへしをせられたりける、有りがたかりけり。

底本：国立国会図書館デジタルコレクション『十訓抄詳解』石橋尚宝 著